

2026年度愛知大学現代中国学会・ 国際コミュニケーション学会共同主催講演会

明治初期における 日中英トライリンガル人材と翻訳 —旧長崎唐通事を中心に

■講師■

孫建軍(SUN JIANJUN)

北京大学外国語学院准教授

■コメンテーター■

塩山正純教授

(愛知大学国際コミュニケーション学部長兼国際コミュニケーション学会長)



■概要■

近代史の発端を振り返り、東アジアにおける近代知の構築過程を考察するにあたって、比較的早い時期に英語を学び、知的構造の転換を試みる旧長崎唐通事たちに注目する必要がある。彼らは英語力と漢語力を明治政府に認められ、外交・法律などの分野において大きな役割を果たした。本報告では、これらのトライリンガル人材による漢訳洋書や西洋書籍の翻訳・紹介の事例を考察し、その翻訳の形式・内容・時期・影響などを整理する。さらに明治維新初期の翻訳史における唐通事の役割を分析する。

- *****
- 日時■ 2026年6月24日(水) 15:00~16:30
 - 場所■ 愛知大学名古屋キャンパス講義棟8階 L804
 - 参加対象■ どなたでも参加可 一般申込不要・無料

■講師プロフィール■

北京大学外国語学院准教授。国際基督教大学学術博士。近代中日語彙交流史、日本語学を専攻。近年に旧長崎唐通事の明治初期における翻訳活動に関する研究に従事。2026年より(12月まで)国際日本文化研究センター外国人研究員。著書に『近代日本語の起源—幕末明治初期につくられた新漢語』、訳書に『日本発見欧州』(ドナルド・キーン著)など。

お問合せ先: 愛知大学現代中国学会・国際コミュニケーション学会(共同学会室内)

TEL:052-564-6128 月~金(9:00~17:00)(閉室12:00~13:00)

